

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造 価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～

令和7年度 研究開発学校フォーラム 事前説明動画



- 1 問題の所在
- 2 本校のカリキュラム
- 3 4年間の成果と課題
- 4 今後の予定



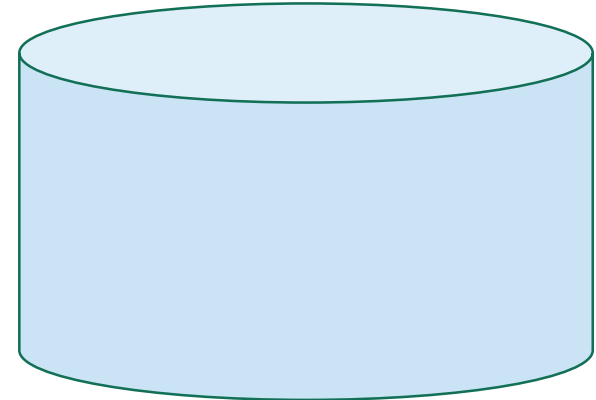
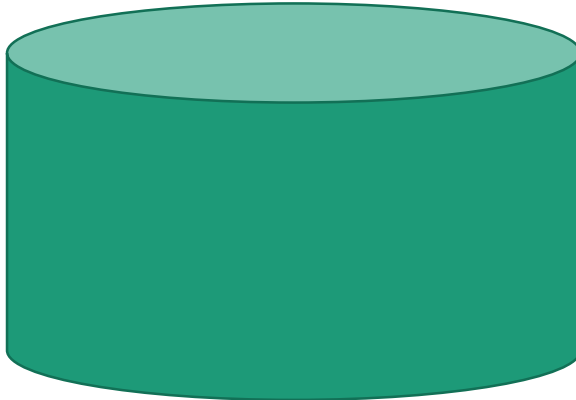
香川大学教育学部附属高松小学校
研究主任 鵜川 護

1 問題の所在

学校

地域社会
(生活・実社会)

従来



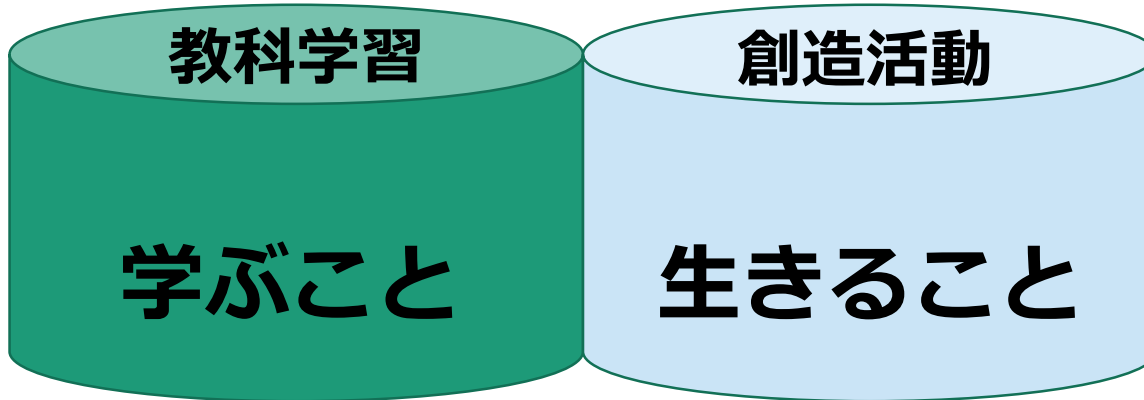
前研究

教科学習

創造活動

学ぶこと

生きること



2 領域カリキュラム

地域の一部を学校に取り入れる

1 問題の所在



**価値観の違い
年齢の違い
国の違い**

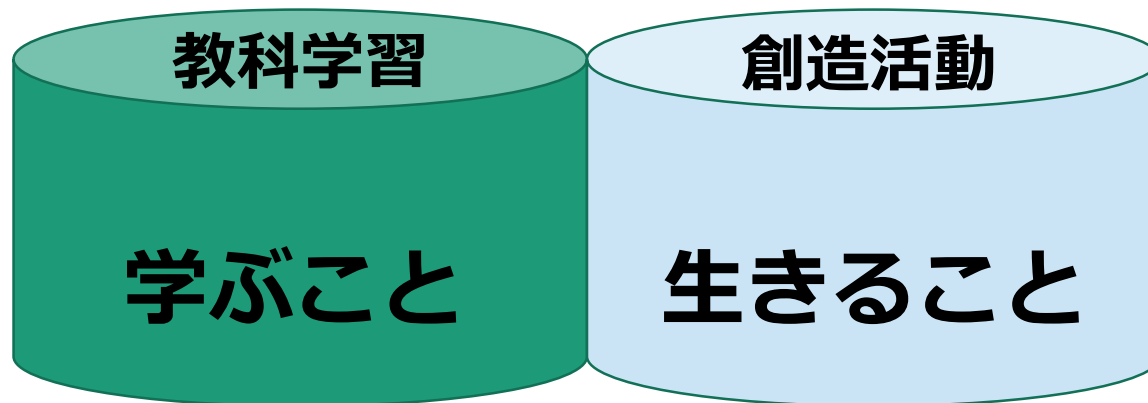


包摂・新しい知や価値の創造



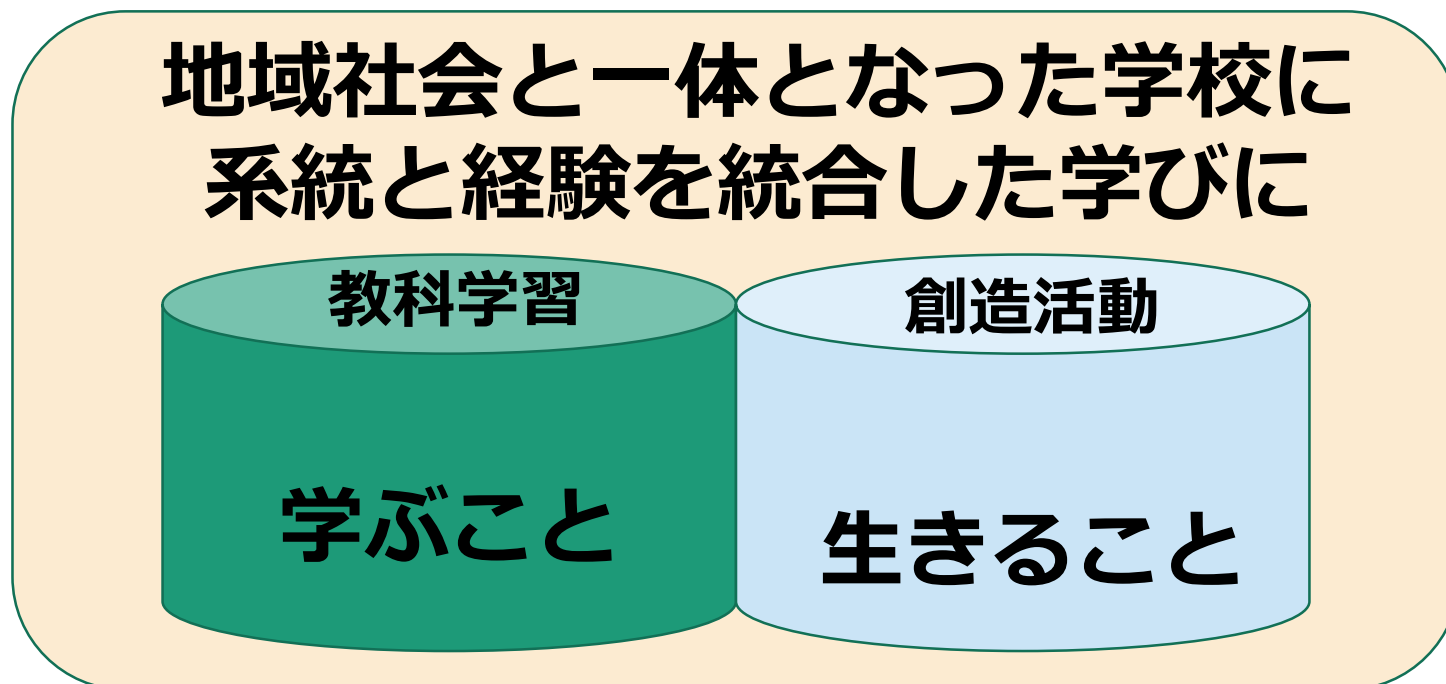
1 問題の所在

前研究



領域カリキュラム
地域の一部を学校に取り入れる

本研究



分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造 価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～

1 問題の所在

2 本校のカリキュラム

3 4年間の成果と課題

4 今後の予定



文部科学省研究開発学校（R4～R7）

【研究開発課題】

個の生活知を豊かにする新領域「経験」と、
体験を価値の創造につなぐ「じぶん」の時間
を創設し、経験から新たな知や価値をつくる
教育課程に関する研究開発



「はっけん」の時間



「ちょうせん」の時間

経験領域



「じぶん」の時間

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造、価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～

	各教科の授業時数										特別の教科である道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	ちようせん	はっけん	じぶん	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語								
第1学年	268 (-38)		108 (-28)		78 (-24)	51 (-17)	51 (-17)		84 (-18)		0 (-34)	17 (+17)		0 (-34)	105 (+105)	54 (+54)	34 (+34)	850
第2学年	278 (-37)		148 (-27)		81 (-24)	53 (-17)	53 (-17)		86 (-19)		0 (-35)	17 (+17)		0 (-35)	105 (+105)	54 (+54)	35 (+35)	910
第3学年	236 (-9)	63 (-7)	166 (-9)	82 (-8)		54 (-6)	54 (-6)		99 (-6)		0 (-35)	32 (-3)	0 (-70)	0 (-35)	105 (+105)	54 (+54)	35 (+35)	980
第4学年	236 (-9)	82 (-8)	166 (-9)	98 (-7)		54 (-6)	54 (-6)		99 (-6)		0 (-35)	32 (-3)	0 (-70)	0 (-35)	105 (+105)	54 (+54)	35 (+35)	1015
第5学年	166 (-9)	94 (-6)	166 (-9)	99 (-6)		44 (-6)	44 (-6)	57 (-3)	84 (-6)	67 (-3)	0 (-35)		0 (-70)	0 (-35)	105 (+105)	54 (+54)	35 (+35)	1015
第6学年	166 (-9)	99 (-6)	166 (-9)	99 (-6)		44 (-6)	44 (-6)	52 (-3)	84 (-6)	67 (-3)	0 (-35)		0 (-70)	0 (-35)	105 (+105)	54 (+54)	35 (+35)	1015
計	1350 (-111)	338 (-27)	920 (-91)	378 (-27)	159 (-48)	300 (-58)	300 (-58)	109 (-6)	536 (-61)	134 (-6)	0 (-209)	98 (+28)	0 (-280)	0 (-209)	630 (+630)	324 (+324)	209 (+209)	5785

文部科学省研究開発学校 (R4~R7)

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

自律的に学ぶ力

関わる力

創造する力

どのように

知や価値の創造につなげるか

国社算理生音図家体外

経験領域

「はっけん」の時間

「ちょうせん」の時間

異学年集団

どのような経験を豊かにするか

工芸や大団云

異年齢集団

文部科学省研究開発学校（R4～R7）

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

自律的に学ぶ力

自分で決めたことについて
見通しをもち、
責任をもって行動する力

関わる力

多様性を受け入れ、
協同的に
問題解決していく力

創造する力

これまでの経験や
学んできたことをもとに、
自分の考えをつくり出す力

教科学習
国社算理生音図家体外

「じぶん」の時間

経験領域

「はっけん」の時間

「ちょうせん」の時間

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造 価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～

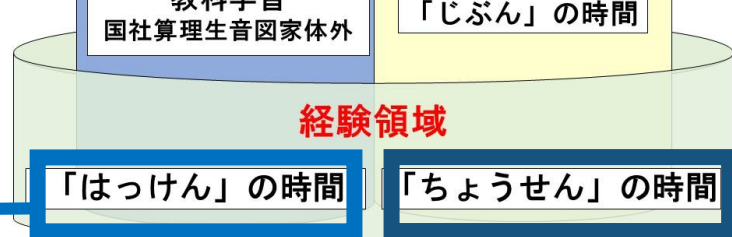
1 問題の所在

2 本校のカリキュラム

3 4年間の成果と課題

4 今後の予定





1年間の成果と課題

「はっけん」

教科学習につながる経験を豊かにする

「ちょうせん」

生き方・在り方につながる経験を豊かにする



学習内容

教科学習

教科学習 教科書外

「じぶん」の時間

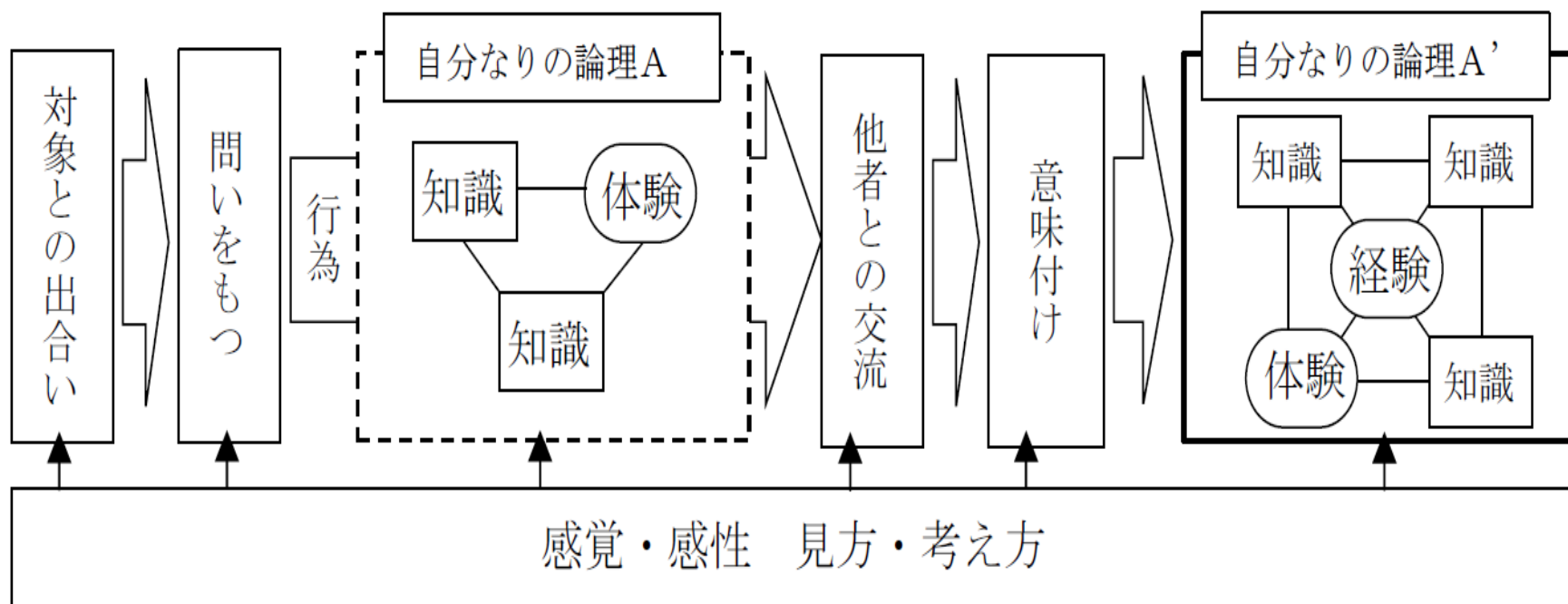
自分なりの 論理

事象や課題に対する
自己の考えの筋道や
組み立て



体験

感覚・感性、思い
気持ち、見方・考え方



自分なりの論理がつけられるプロセス

I. 内容設定

見方・考え方

感覚・感性が働く
行為

II. しかけ

遊びの要素

活動展開

環境設定

III. 見取り

即時的見取り

長期的見取り

教師の支援

成果

○教師の意識と子どもの感じ方の調和が重要である

教師は、教科の見方・考え方や、感覚・感性が働きやすい具体的な行為が含まれた活動を設定すること。

子どもは、互いの多様な見方・考え方や、感覚・感性にふれながら共に遊びを楽しむこと。

○子どもの認識の多様性を受容できる

複数人での見取りを継続することで、子ども一人一人の捉え方の特徴が明確になり、授業の単元化での想定に取り入れることができること。



課題

○教科学習の年間計画との具体的な関連

それぞれの活動と各教科の単元との関連を教科等横断的なしてから、整理する必要がある。
ただし、子どもの「自分なりの論理」が一律ではないことは、前提となる。

○教室外での活動の増加による活動場所の確保



異学年集団でのプロジェクト活動の中で
探究的に問題解決を繰り返す



選択・判断



選択・判断



うまくいかない経験や
成功した経験のくり返し
の中で経験を豊かに
している

実社会との
つながり

異学年の
関わり

個の
こだわり



成果

価値の創造



想いや願い、感じ方を伴ったエピソードを語る

価値の実践化



「じぶん」の時間



想いや願い、感じ方

創造した価値をもとに実践する
→ 3つの力の
発揮

「ちょうせん」の時間

想いや願い、感じ方をもつ

経験の保障



成果

○教師のしかけは3つの視点

「実社会とのつながり」「異学年の関わり」
「個のこだわり」が生まれるように個の問題解決の文脈に沿ってしかけることが必要
→プロジェクト活動の充実が必須

思いや願い、感じ方の具体

成功、失敗、葛藤、感動、発見、
成長、挫折、後悔、諦め、戸惑い、
停滞 等



成果

○子どもの思いや願い、感じ方を多様な方法を用いることで、エピソードと関係付けて見取ることができる。

- ・ウェビングマップ
 - ・写真の選択
 - ・雑談
 - ・記述
 - ・インタビュー
- 長期的に変容を見取る



課題

○児童アンケート結果より（R6年度末）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
⑦「ちょうせん」の時間に、思ったことを安心していえます	60.6	58.8	70.9	61.0	74.5	72.5
	2.8	2.7	2.9	2.7	3.0	3.0

- ・ 教師のお膳立てが増えて、子どもの選択幅が狭まっている可能性がある。
- ・ 子ども自身でPDCAサイクル（長期的）やAARサイクル（短期的）を回している自覚がもてる手立てが必要である。



教科の本質を保障した学習活動を通して、
4 観点の充実を目指す。

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

自律的に学ぶ力

関わる力

創造する力

態度
自律的な

態度
協同的な
共感的・

考え方・
見方・

知識・理解
・技能

教科学習の
四観点目標

身の回りの世界の見え方が変わり、 生活を豊かにすることを目指す



「実感を伴って学習内容を理解している姿」

感覚・感性を働かせた経験と学習内容を関係付けた姿

- ①学習内容について、具体的な場面等を用いて、
- ②複数の具体的な場面の諸要素を、一般化して、
言語化し、述べる。

具体（経験）

- ・ 具体的場面 ・ 図
- ・ 操作 ・ 表現物
- ・ 思い、感覚・感性
- ・ 自分なりの論理

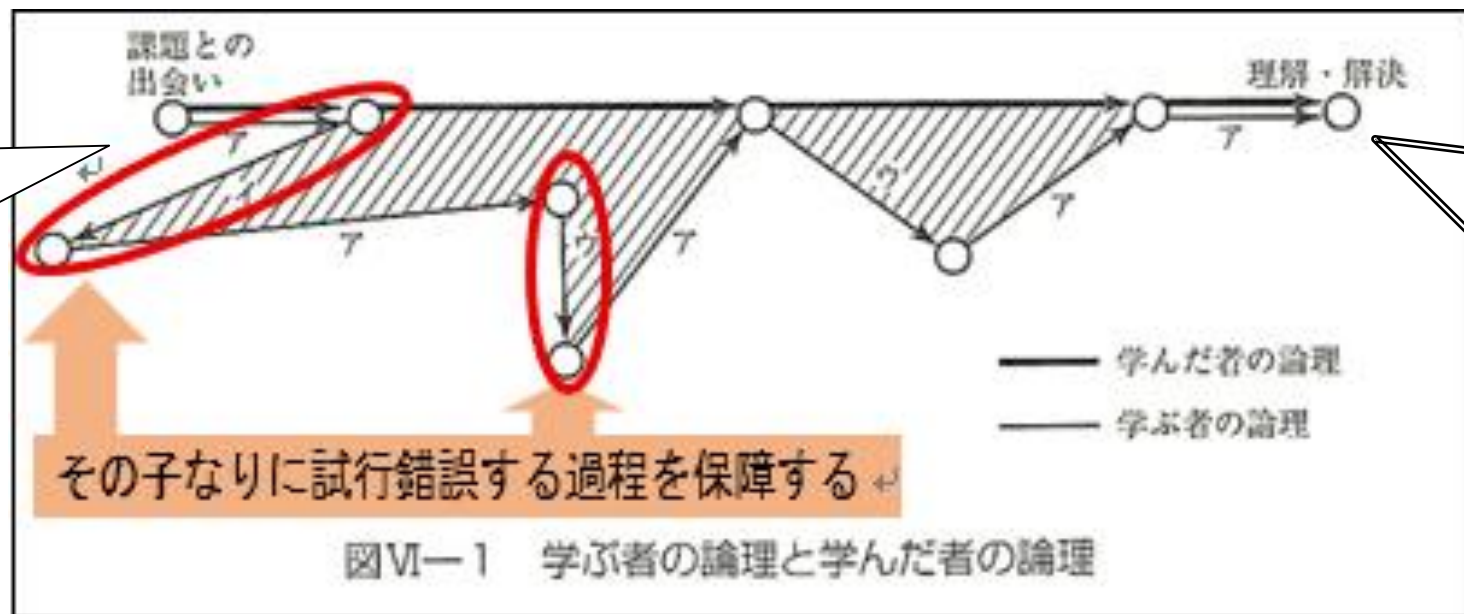
抽象（学問）

- ・ 学習内容
- ・ 概念 ・ 式
- ・ （スキーマ）



「実感を伴って学習内容を理解している姿」

感覚・感性を働かせた経験と学習内容を関係付けた姿



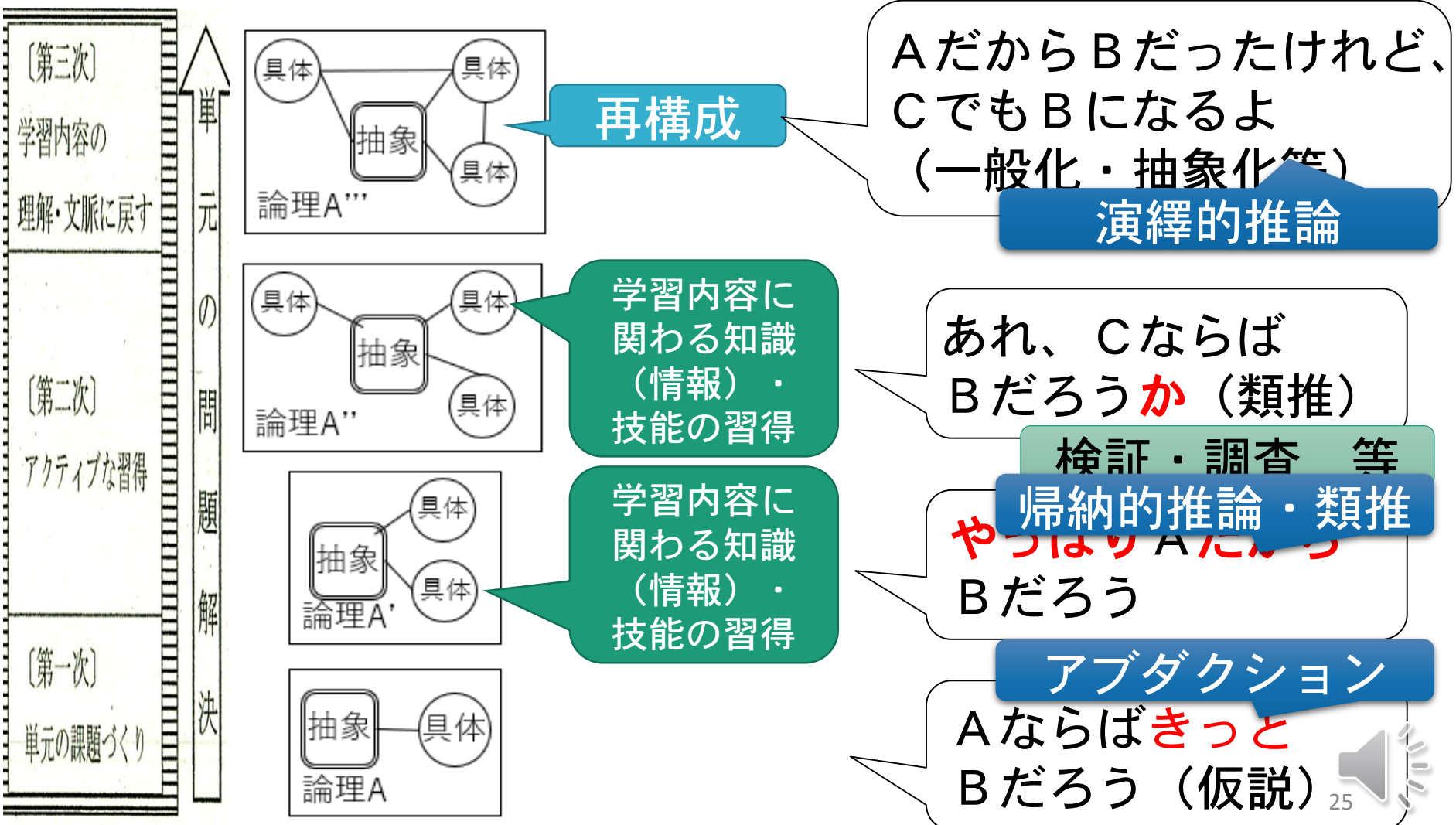
問
い

学
習
内
容

図中の○と↑は本校で追記

これらの姿を自律的な態度、共感的・協同的な態度、
見方・考え方、知識・理解・技能の4観点で見取る

自分なりの論理の再構成のプロセス



自分なりの論理の再構成のプロセス

問題解決の過程への価値付け（学び方）

単元の問いに対する意味付け（別事象への探究）

学習内容に関わる知識（情報）・技能と自分なりの論理の関係付け（一般化・抽象化・統合）

学習内容に関わる知識（情報）・技能の習得

自分なりの論理の表出、立場の明確化

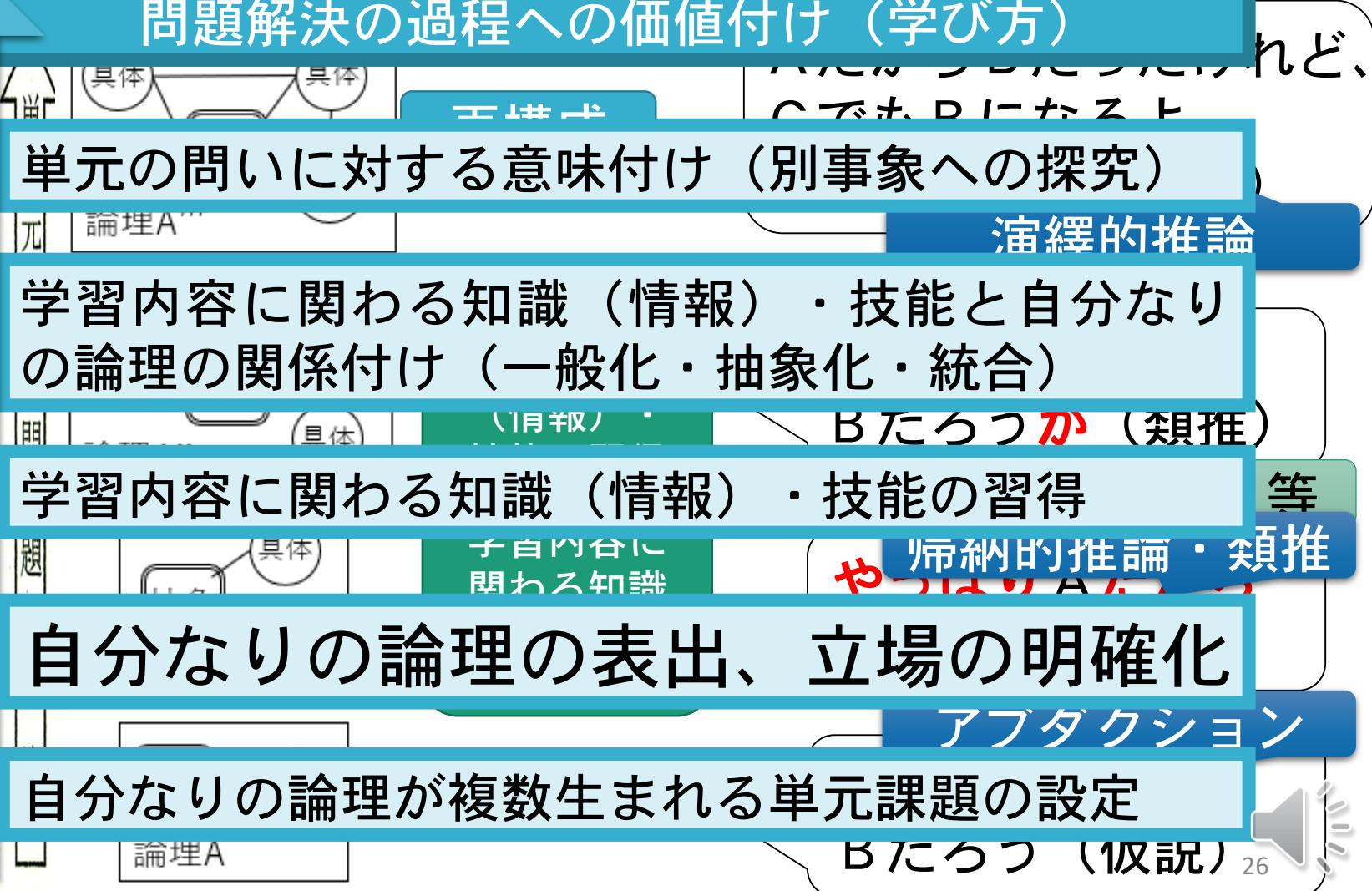
自分なりの論理が複数生まれる単元課題の設定

見方・考え方

〔第三次〕
学習内容
理解・文脈

〔第二次〕
アクティ

〔第一次〕
単元の課題



子どもの自己評価（単元における次毎、終末）

安彦(1986)は、注目すべき自己評価能力の一つに「自省能力」を挙げ、「自らを省みて、**次の段階へ進むステップを確かにする能力**」と定義している。自己評価能力は、過去ばかりを向いた思考ではなく、**未来を志向した思考である**という指摘である。

・ 学習内容の意味付け （実感を伴った学習内容の理解）

- ①自分なりの論理を繰り返し表出する場を設ける
- ②他者の自分なりの論理と比較、解釈する場を設ける
- ③自己の変容を自覚する場を設ける。
 - ・ 学習内容における変容
 - ・ 納得度としての自覚化

自己評価
認知面を
・ 数値化
・ 言語化
→ 自覚化

・ 学び方の価値付け

- ①自己の変容を自覚する場を設ける。
 - ・ 学び方における変容
 - ・ 自己の伸びや成長への気付き、価値付け
 - ・ 自己の考えが形成されたきっかけの自覚化

納得
→ 根拠の具体化



授業時数削減の視点と事例

- ① 「はっけん」の時間で自分なりの論理をつくるからこそ、授業時数削減に寄与する。

「はっけん」の時間で使い終わった油からアロマキャンドルや石けんをつくる経験から、古いものが別の物として活用できることを学んだ。それにより、ごみの再利用についての自分なりの論理をつくることができ、社会科の廃棄物処理に関する単元の時数削減につながった。

- ② 経験を生かすことで、学習内容の習得時間をスリム化する。

香川大学が行う出前授業との連携により、自然災害の現状と地域の課題を知る時間を設定した。それにより、社会科の見方・考え方や内容のつながりを意識して知識を習得することができ、時数削減につながった。

- ③ 「ちょうせん」の時間で経験を保障しているからこそ、授業時数削減に寄与する。

「ちょうせん」の時間で地域の史跡を活性化する活動を行ったことで、何度も現地を訪れることができた。それにより、社会科の文化財について学ぶ単元で見学に活用する時間を削減することができた。



- ・ 価値創造のプロセスの構造化
- ・ 子ども一人一人が自らの学びの価値付け

体験

ふり返り

概念化

新たな体験

思いや
願い、
感じ方
を伴っ
たエピ
ソード

出来事と感
じたこと・考
えたことに
着目

友達と
議論する

自他にとっ
て大切な
ことを捉
え直す

なぜそう
感じたか
出来事に
着目

友達に
話す

自分が大切
だと思っ
たことを
再整理

できるよう
なった過
程に着目

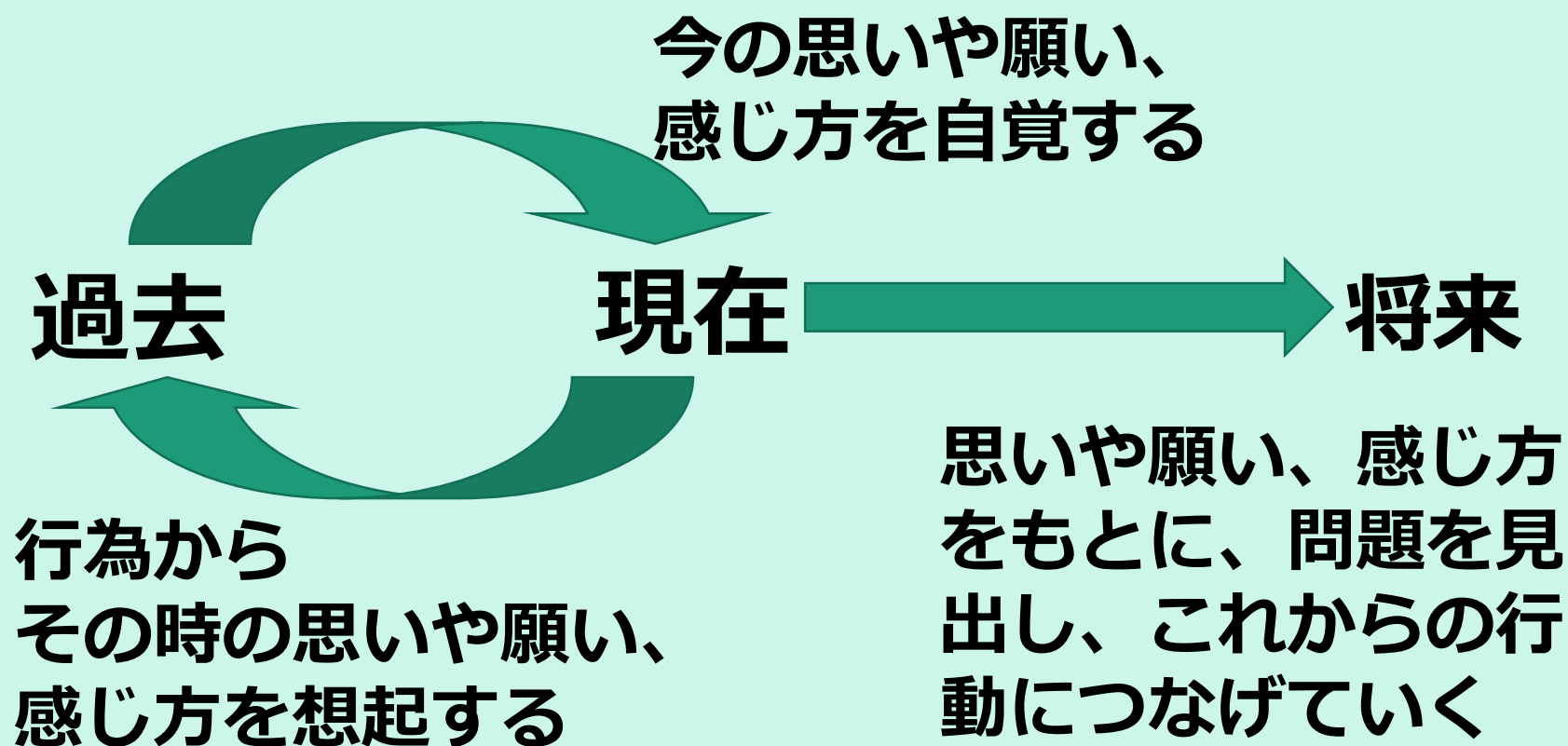
自分の思
いを表出
する

うまくいく
ためには
何が大切
か考える

実践化
につなぐ



発達段階を踏まえた**価値創造**のプロセス



目指す子ども像

本校が目指す
3つの力

分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

自律的に学ぶ力

自分で決めたことについて
見通しをもち、
責任をもって行動する力

関わる力

多様性を受け入れ、
協同的に
問題解決していく力

創造する力

これまでの経験や
学んできたことをもとに、
自分の考えをつくり出す力

3つの力を発揮
しながら価値を
見出す

3つの力を
支える価値

見出した価値を
もとに行動し、
3つの力がさら
に育まれる

自律的に
学ぶ

関わる

創造する

「じぶん」の時間で扱う

取り上げる経験
※3つの力を支
える価値と1対
1対応ではない

教科学習
の経験

「ちょうせん」
の時間の経験

学年ならではの
経験

成功、失敗、葛藤、感動、発見、成長、
挫折、後悔、諦め、戸惑い、停滞 等



成果

○価値創造には、個のエピソードが必須

成功、失敗、葛藤、感動、発見、成長、挫折、後悔、諦め、戸惑い 等が発端となり、子ども一人一人が自ら価値創造を行う。

時期	保障する経験を含む活動や行事	思いや願い感じ方を伴う取り上げたいエピソード	想定する価値
4月	入学式準備・参加 1年生を迎える会 修学旅行 学級委員・係・当番決め 学級目標決め 校国の政治の仕組みと選挙	<ul style="list-style-type: none"> 学級委員決めでは、学級委員になることができなくて悔しくて、すぐには立ち直ることができなかった。 6年生として1年生のお手伝いに行きたい。これまで早起きができなかったけれど、1年生のお手伝いをするんだと思うと、早起きができるようになっていく。 	<p>○6年生になったから、下学年を引っ張る「じぶん」になりたいよ。そのためには憧れられる行動が大切だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大事にしたいことが違うから、考えをひとつにするのは難しいんだな。物事を見る角度によって正解は変わってくるんだね。だから、国会で議論するんだな。☺ 人のためになら頑張れることがあるから、たくさんの下学年と進んで関わることを大切にしたいな。☺
5月	団長決め 応援合戦の運営 選択種目の練習 運動会	<ul style="list-style-type: none"> 運動会の応援合戦の練習するとき、白組の気分をうまく盛り上げることができなくて悔しい。 練習する人の人数が減ってきている感じがする。自分も、努力を続けることがだんだん苦しくなってきたよ。 クラスの中で気持ちの差があつて準備の進みが遅い。1つになれなくて、もどかしい気持ちがずっとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 真剣にやっているからこそ、うまくいかなさが感じられる。☺ 最高の結果を得るにはそれまでの努力も欠かせないことだ。☺ 本気でやるからこそ、悔しい思いも嬉しい思いもできる。☺ 思いを伝え合うことで、お互いのことを思い合うことができる。☺
6月	プロジェクト開始 縦割り清掃 ランチルーム給食 第一回学力テスト 中学校説明会 幼稚園児と交流 非行防止教室	<ul style="list-style-type: none"> 負けてしまったけれど、満足しているのはみんなと一緒に泣いてくれたからだ。仲間がいないと感じられなかったことだ。 プロジェクト活動を進めるリーダーとして、前にたつて話すことが自分は苦手だと感じる。自分の役割は何か悩んでいる。 学力テストや学校説明会で自分の将来について考えることができるけれど、自分は何を生かしていきたいのか分からないな。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人のために自分のできることを増やしていこうとすることが大切。☺ 自分には得意なことがあって、苦手なこともある。他の人もそうだから、お互いができることを一生懸命する。☺ 毎日3食って当たり前だけど、自分で作るのは到底無理。感謝の気持ちをもって食事をしたいな。☺
7月	1年生と交流 研究授業	<ul style="list-style-type: none"> 自分が前に立って話している時に、聞いてくれない時があつて、どのようにすればいいか戸惑っているよ。 	<p>○他の人のようにできないことがあつても「じぶん」ができることを一生懸命することになりたい「じぶん」に近付くことができるよ。</p>

課題

○毎年同じ行事に関係するエピソードが類似している場合は、その題材では価値創造が行われにくいおそれがある。

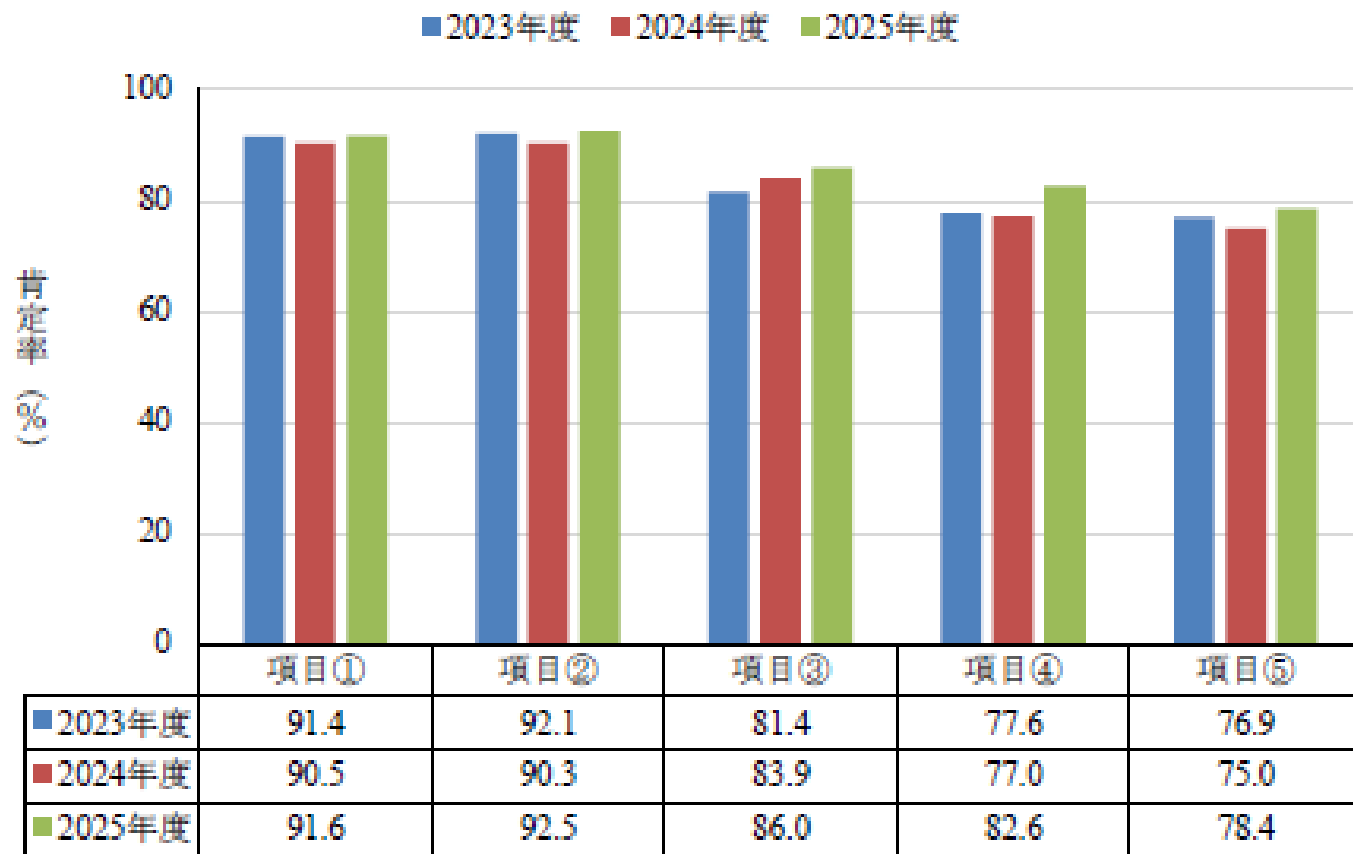
→同じ行事・活動によるエピソードでは、限定的な価値に留まる。

集団での立場が大きく異なっていれば、同じ行事等でも価値創造が期待できる。



3 4年間の成果と課題（子どもの声）

アンケート結果より（N=601）



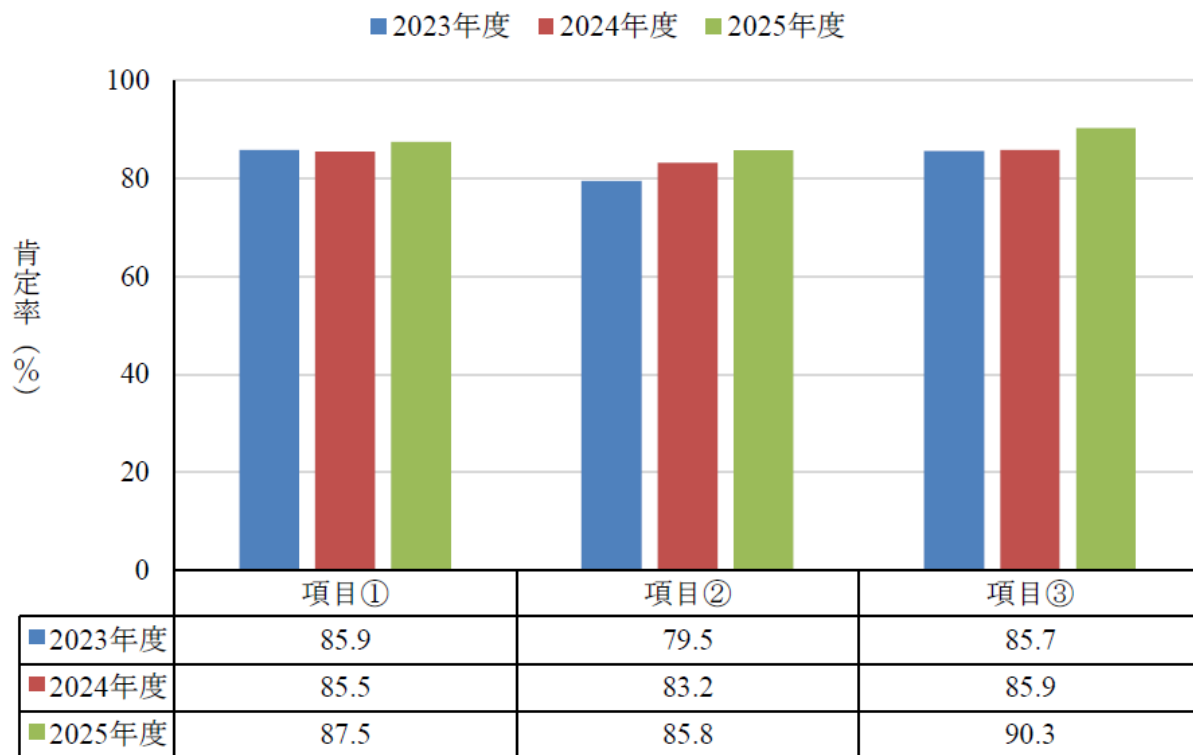
- ①学校に行くのが楽しいです
- ②ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがあります
- ③自分には、よいところがあるとおもいます
- ④普段の学級で、わたしが活躍できるところがあります
- ⑤縦割り学級で、わたしが活躍できるところがあります



3 4年間の成果と課題（子どもの声）

アンケート結果より（N=601）

図 2-1 資質・能力に関する項目の3年間の変化

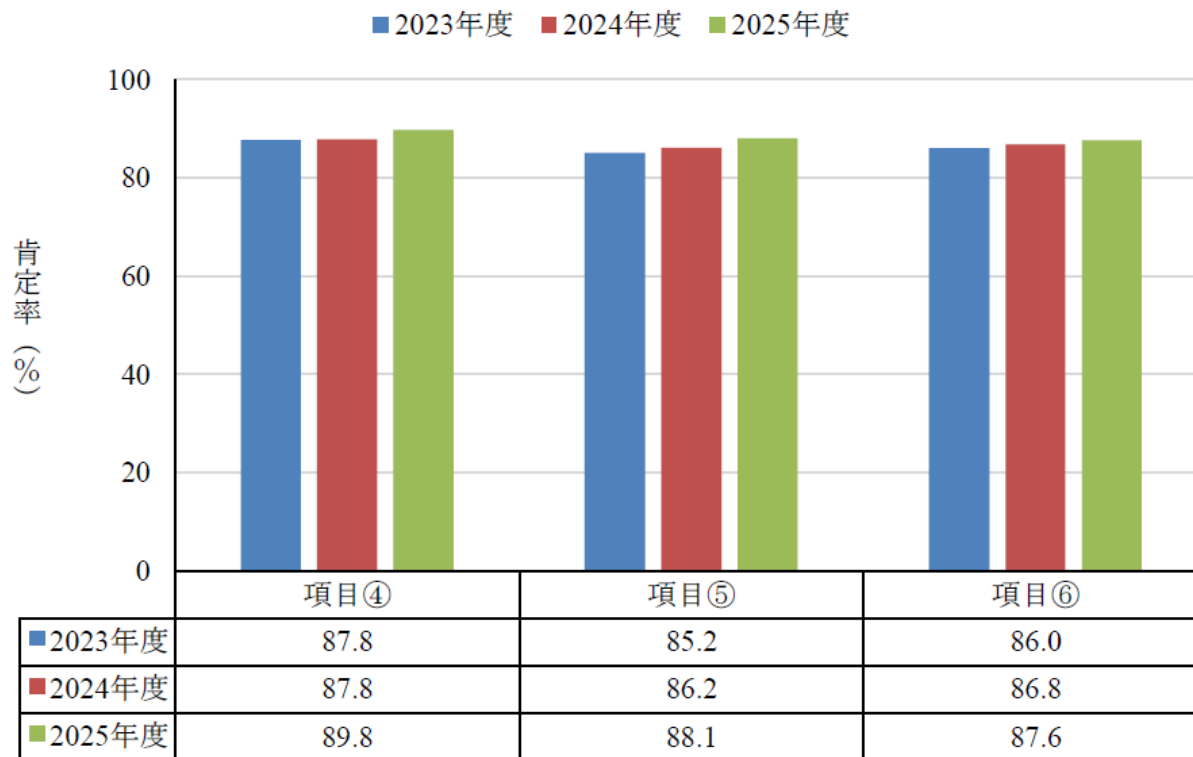


- ①授業で教わったことや調べたことについて、自分なりに考えている
- ②学校での学びに、興味をもって自分からとりくんでいる
- ③授業で難しいなと思うことがあっても、やり方や考え方を工夫して何とかしようとしている



3 4年間の成果と課題（子どもの声）

アンケート結果より（N=601）

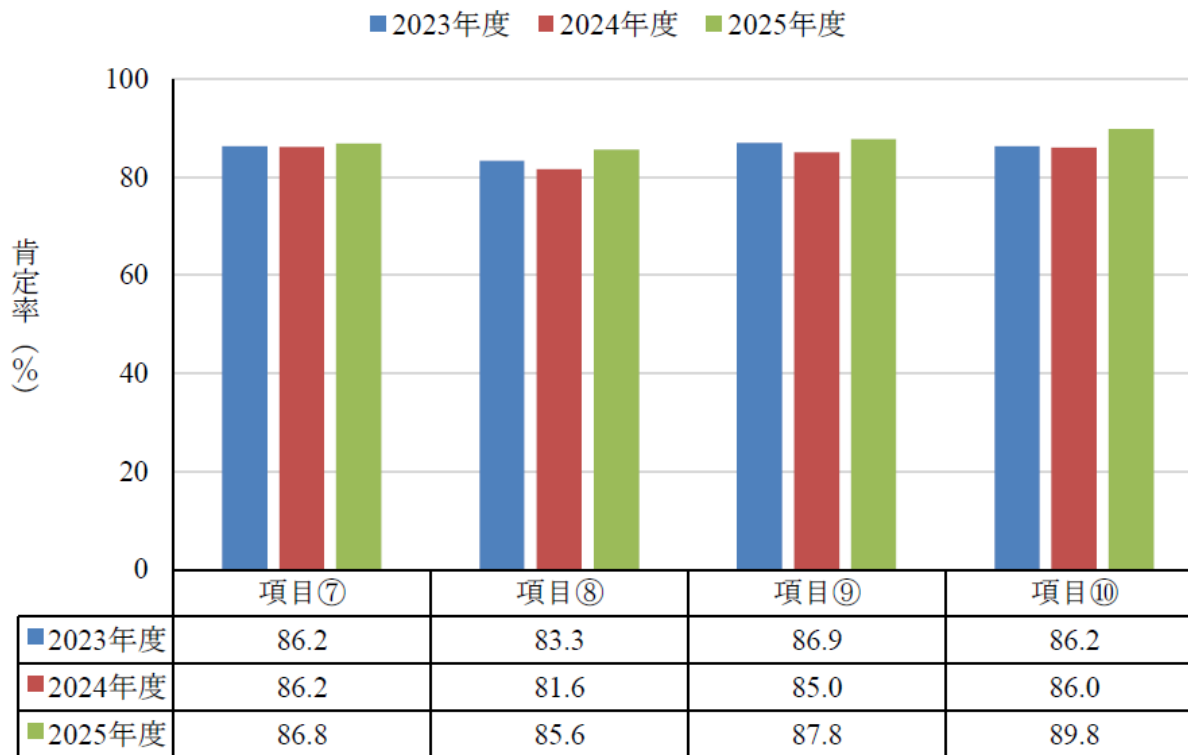


- ④自分と違う意見をもっている友だちとも、協力していっしょに学んでいる
- ⑤友だちと協力するときに、自分の思ったことをきちんと伝えている
- ⑥友だちといっしょに学ぶときに、友だちがどうしたいとおもっているかを考えている



3 4年間の成果と課題（子どもの声）

アンケート結果より（N=601）



- ⑦同じ学年の友だちや違う学年の友だちと、いっしょに何かを作りあげたり、新しい発見をしたりしている
- ⑧「どうしてかな？」と思うことがあったら、これまでに学んだことを使って考えている
- ⑨今までの授業で習ったことや学校の外で知ったことを使って、授業に取り組んでいる
- ⑩自分の考えと友だちの考えをつなぎながら、授業に取り組んでいる



分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造、価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～

1 問題の所在

2 本校のカリキュラム

3 4年間の成果と課題

4 今後の予定



分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造、価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～

いっしょに

香川大学教育学部
附属高松小学校

香川大学教育学部
附属幼稚園高松園舎



令和7年度

初等教育研究発表会

令和8年

2月

木曜日

5日

令和8年

2月

金曜日

6日

小学校



分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成
～ 知の創造、価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち～

文部科学省指定 令和4年度～7年度 研究開発学校(4年次)

幼稚園



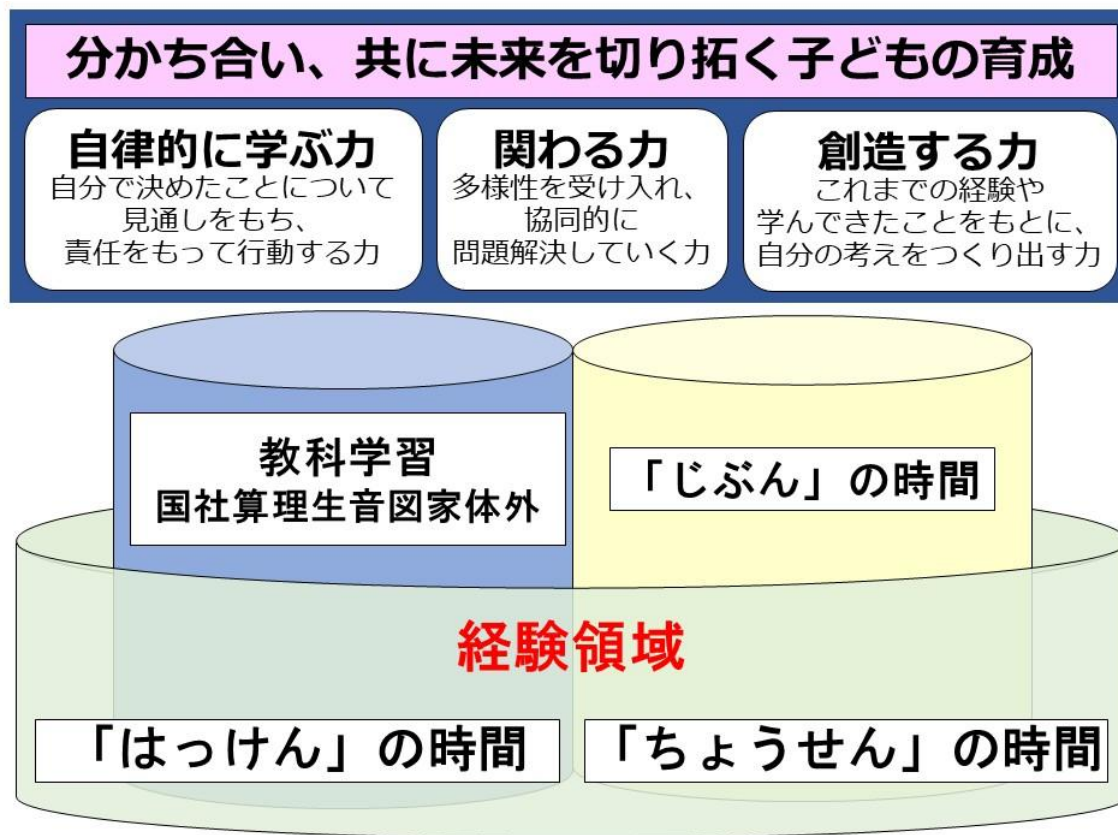
環境の在り方について考える
～ 子どもとともにつくる・考える～

ぜひ、実践を現地にてご覧いただき、
ご指導をよろしくお願いいたします。



分かち合い、共に未来を切り拓く子どもの育成

～ 知の創造 価値の創造を実現する新たなカリキュラムの可能性と子どもの育ち ～



ご清聴ありがとうございました
1/21 (水) のセッションでのご意見を
どうぞよろしくお願いいたします

